

日米投信概況

日米など世界でゴールドファンド(金ETF)の純流入が加速！ ～日米ETFの乖離(プレミアム/ディスカウント)の動向と開示～

三菱UFJアセットマネジメント株式会社 商品マーケティング企画部 松尾健治 (kenji-matsuo@am.mufg.jp)
窪田真美 (mami1-kubota@am.mufg.jp)

- 日本でコモディティが過去最大の純流入！ ゴールド/金関連ファンドは直近9週で最も大きな純流入!!
(10月20日～10月24日の日次で見ても全て純流入).....p.1
- 米国ではコモディティが年初来最大の純流入！～ゴールドファンドの純流入～.....p.3
- 日米など世界でゴールドファンド(金ETF)の純流入が加速！ 世界的な金現物需給ひっ迫で日本籍ETFで乖離/
プレミアムが大きく拡大～日米ETFの乖離(プレミアム/ディスカウント)の動向と開示～.....p.4

●日本でコモディティが過去最大の純流入！ ゴールド/金関連ファンドは直近9週で最も大きな純流入!!(10月20日～10月24日の日次で見ても全て純流入)

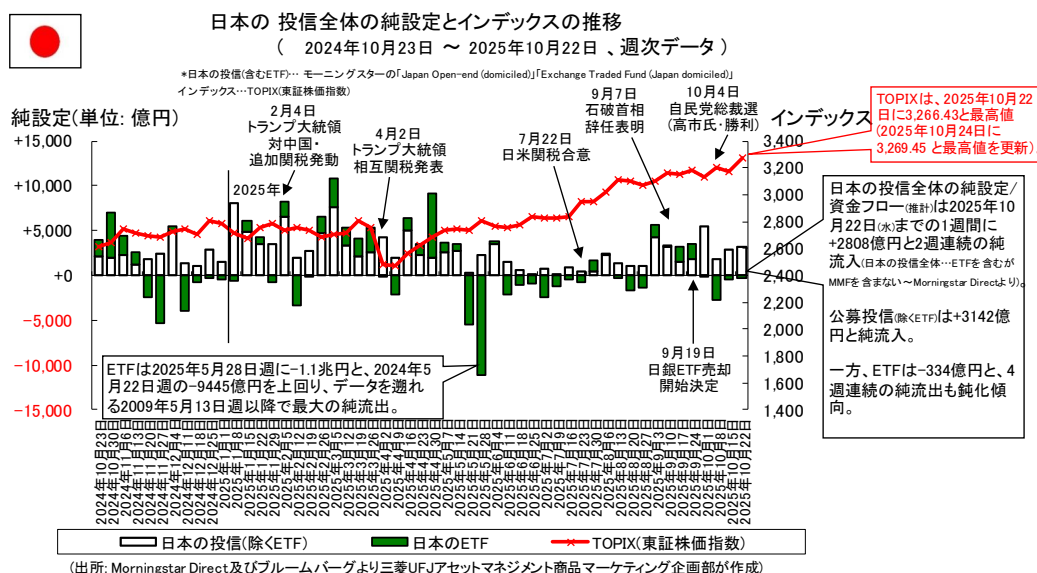
日本籍投信の週次純設定/ファンド(マネー)フロー推計を見ると、2025年10月22日(水)までの1週間に+2,808億円と2週連続純流入(日本籍投信全体…ETFを含むがMMFを含まない～Morningstar Directより)。

日本籍公募投信(除くETF)は+3,142億円と純流入、日本籍ETFは-334億円と4週連続の純流出。

2025年9月19日の日銀保有ETF売却決定の翌週以降、日本籍ETFは純流出が続いている(2025年9月19日の日銀保有ETF売却決定…

2025年9月29日付投信調査レポートNo.444「日銀ETF売却発表前後の日米での日本株投信日次純流出～100年は高リスク・流動性低下・企業統治問題？日本版SWF(政府系ファンド)や20年案～」 https://www.am.mufg.jp/report/investigate/report_202509.pdf)

ただ、2025年10月8日週の-2,804億円(5か月ぶりの大きな純流出で、このうち日本株ETFは-2,093億円)からは純流出は鈍化傾向にある(9月24日週+1,664億円→10月1日週-81億円→10月8日週-2,804億円→10月15日週-520億円→10月22日週-334億円)。



公募投信(除くETF)の10月22日週の純設定額+3,142億円について分類別に見る。純流入1～3位はグローバル株、商品/コモディティ、米国株。純流出1～3位は日本株大型グロース、トレーディング・レバレッジド/インバース、インド株。
商品/コモディティの+753億円は統計開始以来最大だが、ゴールド/金による所が大きい※日本公募投信(除くETF)には日本ETFのファンド・オブ

ETF/fund of ETFsを含む～2025年1月27日付投信調査コラムNo.418「日本でETFは金銭信託型とファンド・オブETFにより拡大?米国やインド等のETF拡大にも寄与～現物設定・現物交換型と金銭設定・金銭信託型ETFとETN～」
https://www.mufg.jp/report/investigate/report_25012.pdf

ゴールド/金関連ファンド(ETF含む)は10月22日週に+1,387億円と直近9週で最も大きな純流入(8月27日週+290億円→9月3日週+272億円→9月10日週+493億円→9月17日週+423億円→9月24日週+612億円→10月1日週+1,166億円→10月8日週+737億円→10月15日週+1,023億円→10月22日週+1,387億円)。

日次で見ると、2025年10月20日(月)+214億円、10月21日(火)に+493億円と年初来最大の純流入となった後、10月22日(水)+278億円、10月23日(木)+12億円(2025年8月12日以来少なさ)、10月24日(金)+85億円となっている(世界のゴールド/金ファンド…2025年5月12日付投信調査レポートNo.438「世界のゴールド/金ファンド

月次動向(ETFを含む)月次流入出」～https://www.mufg.jp/report/investigate/report_25012.pdf)。米国および世界のゴールドファンドは後述。



日本の投信の分類別週間純流入(純流入の大きい順)

2025-10-22現在

***ETF・MMFを含まない。週次推計の為、月次のものとは異なる。**

順位	分類名 (Morningstar Categories)	純流入 最新週 (百万円)	純流入 前週 (百万円)	純流入 4週計 (百万円)	純資産 (百万円)	備考 (和訳は三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部)
1	World Equity	+110,064	+79,463	+460,010	25,632,051	グローバル株
2	Commodity	+75,323	+53,823	+241,355	2,624,299	商品
3	US Equity	+62,354	+41,985	+230,481	30,052,585	米国株
4	World ex-Japan Equity	+55,882	+27,661	+168,146	15,701,852	グローバル株-日本を除く
5	Japan Large-Cap Blend Equity	+14,508	+5,835	+39,776	6,163,885	日本株大型ブレンド
6	Moderately Aggressive Allocation	+11,864	+2,728	+43,555	5,072,245	モデレート・アグレッシブ・アセットアロケーション
7	Aggressive Allocation	+9,275	+5,891	+34,583	1,011,824	アグレッシブ・アセットアロケーション
8	Other Allocation	+6,312	+6,704	+26,749	769,089	その他アロケーション
9	World Specialty Equity	+6,246	-22,613	+6,858	15,143,989	グローバル・特定テーマ/セクター株
10	World Bond - JPY Hedged	+6,019	-6,130	+6,825	1,701,602	グローバル債-円ヘッジ
74	US REIT	-1,458	-5,171	-19,308	2,224,541	米国REIT
75	World Equity - JPY Hedged	-1,532	-2,265	-7,611	585,610	グローバル株-円ヘッジ
76	US High Yield Bond	-2,077	-2,161	-8,794	1,482,972	米国・ハイイールド債
77	Japan Small-/Mid-Cap Growth Equity	-2,335	-3,029	-11,104	1,069,078	日本株中小型株グロース
78	Other Bond	-2,693	-2,276	-6,821	563,186	その他債
79	Conservative Allocation	-4,847	-4,406	-4,777	2,719,619	コンサバティブ・アセットアロケーション
80	Moderately Conservative Allocation	-6,353	-1,458	+291	3,037,110	モデレート・コンサバティブ・アセットアロケーション
81	India Equity	-11,599	-13,616	-36,292	2,866,640	インド株
82	Trading - Leveraged/Inverse	-11,872	+3,036	-17,758	729,415	トレーディング・レバレッジド/インバース
83	Japan Large-Cap Growth Equity	-14,937	+27,805	-1,276	8,366,154	日本株大型グロース
全83分類の合計		+314,220	+282,271	+1,317,388	165,540,447	
指数名		リターン※ 最新週(%)	リターン※ 前週 (%)	リターン※ 4週 (%)		
TOPIX (東証株価指数)		+2.60	-1.61	+3.98		
S&P500		+0.43	-1.20	+1.00		
MSCI ワールド		+0.49	-1.12	+1.19		

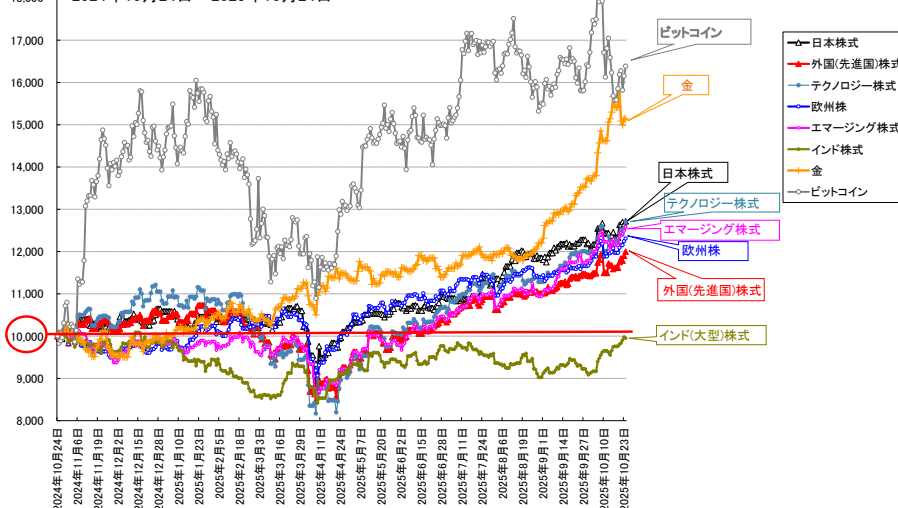
(出所: Morningstar Direct 及びブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)

※現地通貨(MSCI ワールドは米ドルベース、配当込み指数。

日本の株式・金関連投資信託に使われることの多いベンチマークと暗号資産価格の推移(直近1年間)

(1年前を10000としている、円換算、日次データ)

2024年10月24日～2025年10月24日



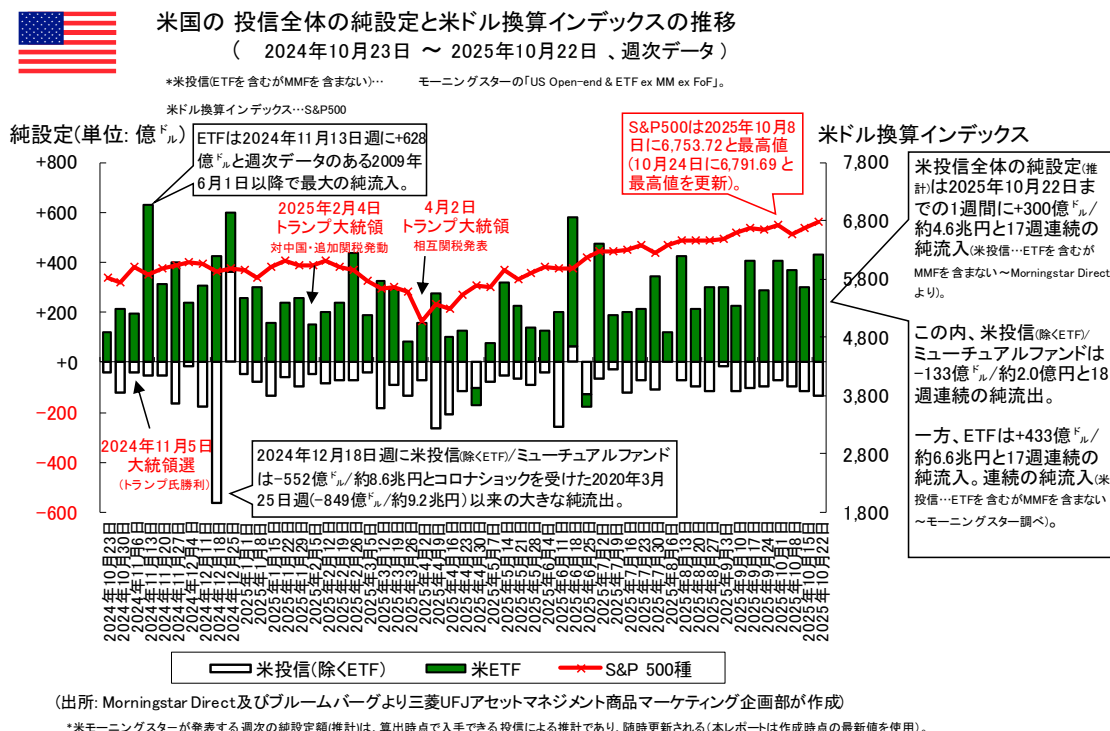
(出所: ブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント株式会社商品マーケティング企画部が作成) ※ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを使用している。

●米国ではコモディティが年初来最大の純流入！～ゴールドファンドの純流入～

米国籍投信の週次純設定/ファンド(マネー)フロー推計を見ると、2025年10月22日までの1週間に+300億ドル/約4.6兆円と17週連続の純流入(米投信…ETFを含むがMMFを含まない～Morningstar Directより)。

米投信(除くETF)/ミューチュアルファンドは2025年10月22日までの1週間に-133億ドル/約2.0億円と18週連続の純流出だが、米国籍ETFが2025年10月22日までの1週間に+433億ドル/約6.6兆円と17週連続純流入(継続的なミューチュアルファンドの純流出

とETFの純流入にはミューチュアルファンドからETFへのコンバージョン/転換も寄与…2023年11月27日付日本版ISAの道 その391「アクティブ運用型ETFが米国を中心に世界で急増！」～ https://www.am.mufg.jp/report/investigate/column_211127.pdf)o



2025年10月22日週の投信全体(含むETF、除くMMF)純設定額を分類別に見る。

純流入1～3位は、米国大型ブレンド株(S&P500連動など)、商品・フォーカス、米国中長期コア債。

純流出1～3位は、米国ハイイールド債、トレーディングレバレッジ株式(ブル型)、米国中型グロース株。

S&P500は2025年10月24日に6,791.69と最高値を更新。

純流入を詳細に見ると、債券が+102億ドルと大きな純流入が継続。米国株が+45億ドルと2週連続、外国株が+62億ドル、日本株は+2億ドルと小幅ながら2週ぶりの純流入。セクター株が+52億ドルの純流入となっている。**コモディティは+50億ドルと年初来最大で加速傾向。ゴールド/金関連ファンド(ETF含む)が+58億ドルとコモディティの純流入のほとんどを説明出来る。**日本の週次純流入動向は先述通りだが、日本と米国の金ETFの乖離(プレミアム/ディスカウント)の動向と開示、および世界のゴールド/金関連ファンド(ETFを含む)の月次純流入動向は後述する。

一方、純流出を詳細に見ると、**オルタナティブが-7億ドルと11週ぶりの純流出、このうちデジタル資産(ビットコイン等)は-4億ドル/約580億円と小幅ながら6週ぶり純流出となっている**(2025年10月8日週に+56億ドル/約8500億円と過去2番目に大きな純流入からの減速)。



米投信の分類別週間純流出入(純流入の大きい順)

2025-10-22現在

***ETFを含むがMMFを含まない。週次推計の為、月次のものとは異なる。**

順位	分類名 (Morningstar Categories)	純流入 最新週 (百万ドル)	純流入 前週 (百万ドル)	純流入 4週計 (百万ドル)	純資産 (百万ドル)	備考 (和訳は三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部)
1	Large Blend	+8,243	+2,573	+28,431	5,409,708	米国大型ブレンド株(S&P500連動など)
2	Commodities Focused	+4,969	+2,716	+12,474	280,677	商品・フォーカス
3	Intermediate Core Bond	+3,632	+2,351	+10,934	838,465	米国中長期コア債
4	Europe Stock	+2,173	+266	+2,623	93,841	欧州株
5	Foreign Large Blend	+1,814	+828	+5,595	1,355,259	外国大型ブレンド株
6	Intermediate Government	+1,792	+1,610	+6,361	253,738	米国中長期国債(4-6年)
7	Intermediate Core-Plus Bond	+1,548	+487	+4,171	682,177	米国中長期コアプラス債
8	Muni National Interm	+1,441	+987	+4,106	267,399	米国全米地方債
9	Multisector Bond	+1,274	+676	+4,105	194,974	マルチセクター債
10	Technology	+1,263	+1,247	+5,750	486,062	米国テクノロジー株
109	Small Growth	-355	-111	-1,293	193,726	米国小型グロース株
110	Digital Assets	-379	+1,100	+7,734	192,911	デジタル資産(ビットコイン等)
111	Bank Loan	-453	-1,346	-1,483	71,664	米国バンクローン
112	Large Growth	-626	-704	-4,790	2,612,501	米国大型グロース株
113	Small Value	-709	+178	-1,090	246,970	米国小型バリュース株
114	Large Value	-977	-25	-201	1,820,398	米国大型バリュース株
115	Short-Term Bond	-1,140	+868	+1,522	391,503	米国短期債
116	Mid-Cap Growth	-1,213	-182	-2,231	343,956	米国中型グロース株
117	Trading--Leveraged Equity	-1,323	+418	-624	128,913	トレーディングレバレッジ株式(ブル型)
118	High Yield Bond	-2,565	-2,381	-719	324,594	米国ハイイールド債
	全118分類の合計	+30,057	+18,129	+108,296	24,187,808	
	指数名	リターン※ 最新週(%)	リターン※ 前週 (%)	リターン※ 4週 (%)		
	TOPIX (東証株価指数)	+2.60	-1.61	+3.98		
	S&P500	+0.43	-1.20	+1.00		
	MSCI ワールド	+0.49	-1.12	+1.19		

(出所: Morningstar Direct及びブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)

※現地通貨(MSCI ワールドは米ドル)ベース、配当込み指数。

●日米など世界でゴールドファンド(金ETF)の純流入が加速！ 世界的な金現物需給ひっ迫で日本籍ETFで乖離/プレミアムが大きく拡大 ～日米ETFの乖離(プレミアム/ディスカウント)の動向と開示～

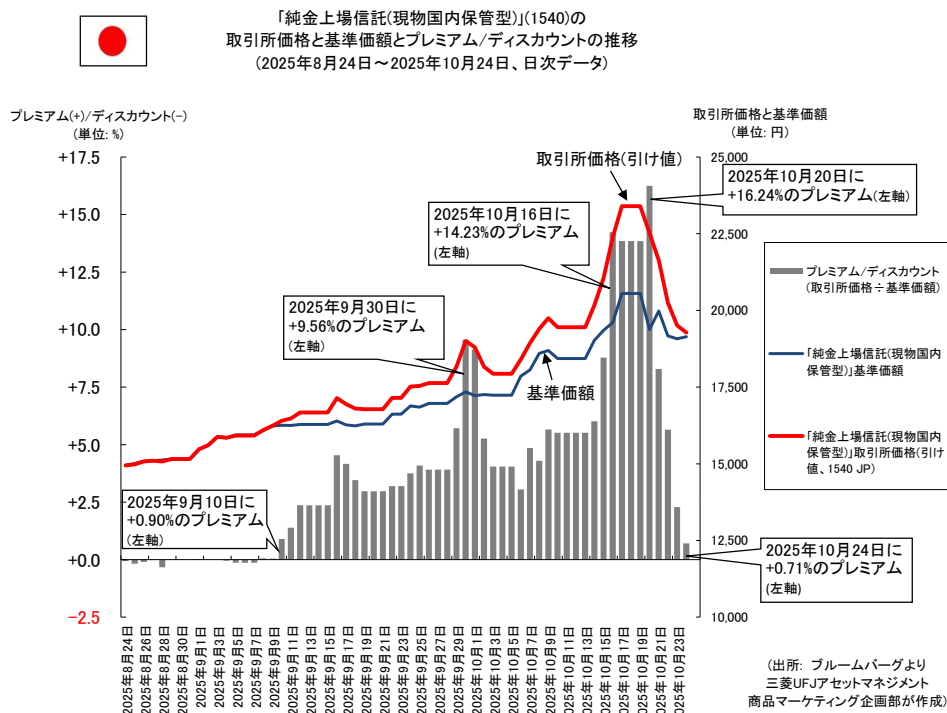
日米など世界でゴールドファンド(金ETF)の純流入が加速している(先述の日米欄参照、世界の純流入および純資産については後述)。

その中、東京証券取引所が2025年10月17日、金ETFとプラチナETFについて投資家に向け注意喚起をした(2025年10月

17日付東京証券取引所「純金上場信託(現物国内保管型)、純プラチナ上場信託(現物国内保管型)」に関する注意喚起」～ <https://www.jse.co.jp/news/1030/20251017-01.html>)o

詳しくは、「純金上場信託(現物国内保管型)」(証券コード 1540)及び「純プラチナ上場信託(現物国内保管型)」(証券コード 1541)について、市場価格が基準価額(一口あたりの純資産額)と比較して高い状態で推移する傾向が継続しているとして、乖離状況への注意喚起をウェブサイトを通じて行った。

ETFにはプレミアム(+)/ディスカウント(-)があり、取引所価格と基準価額の乖離を基準価額で割ったもので、需要が高まって取引所価格が基準価額よりも高くなる場合をプレミアム、低い場合をディスカウントと呼ぶ。今回大きなプレミアムとなった金ETF「純金上場信託(現物国内保管型)」(証券コード 1540)だが、ブルームバーグによると、2025年9月10日に+0.90%のプレミアムで、10月15日に+8.78%のプレミアム、10月16日に+14.23%のプレミアム、**10月20日にこの金ETF「純金上場信託(現物国内保管型)」(証券コード 1540)が+16.24%のプレミアムまで拡大**、その後、10月21日に+8.29%、10月22日+5.65%、10月23日+2.28%、10月24日に+0.71%となっている。



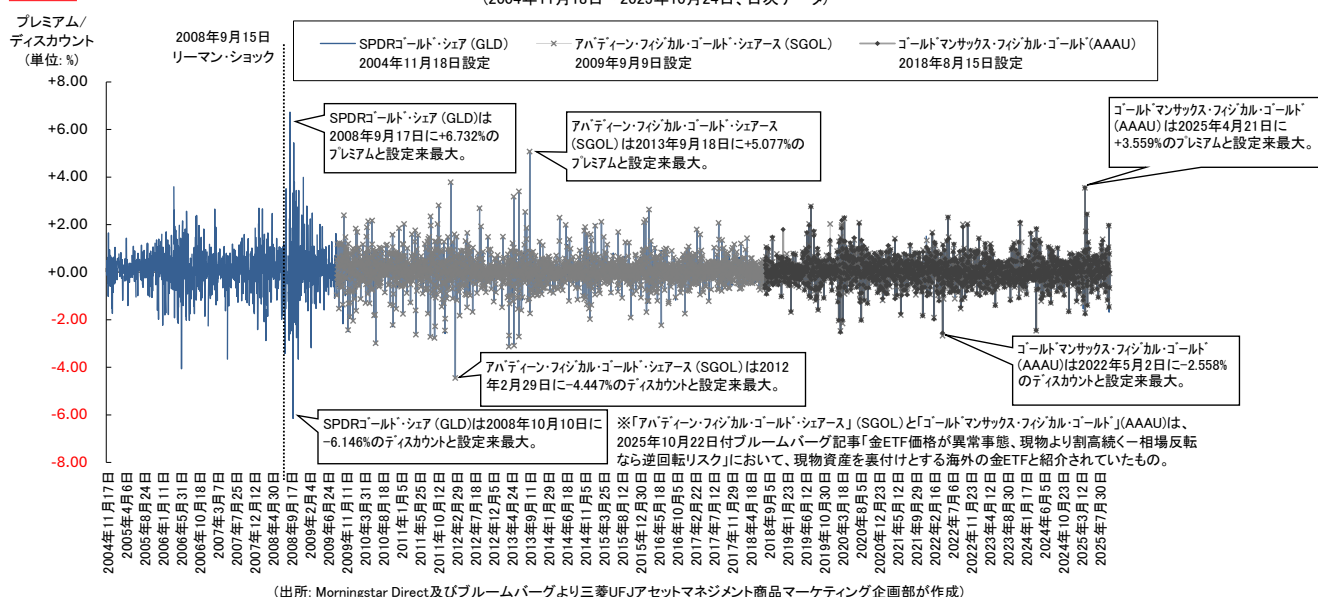
プレミアムが拡大した要因について2025年10月22日付ブルームバークが取材情報も加え、とてもわかりやすいので、その一部を引用する。「貴金属の現物を裏付けとする金やプラチナの上場投資信託(ETF)で、市場での取引価格が1口当たりの純資産額を上回る異常事態が続いている。…(略)…。20日には、取引価格が1口当たりの純資産額を示す基準価格をそれぞれ16%、24%上回り、乖離(かいり)率は過去最大を記録した。世界的な景気の不透明感や地政学リスクを背景とした国際貴金属市況の先高観に加え、**田中貴金属が11月下旬まで小型の地金販売を一時停止するなど個人が国内で現物を購入しづらい状況も金ETFへの資金流入を助長した。**…(略)…。ブルームバークのデータによると、現物資産を裏付けとするなど純金信託と似た特徴を持つ海外のゴールドマン・サックス現物金ETFやアバディーン現物金シェアーズETFなどの乖離率は、過去10年で4%を上回ったことがない。…(略)…。純金信託と純プラチナ信託では通常、取引価格が基準価格を上回ると信託委託者の三菱商事が現物を買付け、新規設定された分のETFを証券会社などが市場で売却することで乖離が縮小していく仕組みとなっている。ただ、三菱商事RtMジャパンの担当者はブルームバークの取材に対し、双方とも**過去最大ペースのETF設定が続く中、通常の国内に加え海外からも地金を調達しているが、急激な価格上昇と需要増に追いついていないと明かした。**…(略)…。東証の岡崎氏は、今後も貴金属の調達などについて発行体や関係者と協議していくと話し、『調達ができている限り、売買停止などの措置を取ることはない』としている。」(強調下線は当コラム筆者、2025年10月22日付ブルームバーク「金ETF価格が異常事態、現物

より割高続くー相場反転なら逆回転リスク」～ <https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2025-10-22/T4DVOGQF9C38>)。

2025年10月22日付ブルームバーク記事に海外の類似の金ETFについて「過去10年で4%を上回ったことがない。」とあった。例にあげたETFをもっと長期に、設定来で見ると、「アバディーン・フィジカル・ゴールド・シェアーズETF」(SGOL)は、2013年9月18日に+5.077%が設定来最大のプレミアム(翌9月19日には+0.0010%のプレミアムに縮小)、「ゴールドマン・サックス・フィジカル・ゴールドETF」(AAAU)は、2025年4月21日の+3.559%が設定来最大(翌4月2日は-1.758%のディスカウント)だった。記事に書かれていないが、**世界最大の金ETFである米国籍「SPDRゴールド・シェア」(GLD)は、リーマン・ショック直後2008年9月17日に+6.732%のプレミアム(翌2008年9月18日に-2588%のディスカウント、翌々9月19日に+0.456%のプレミアム)が設定来最大である**(2008年10月10日に-6.146%のディスカウントがあり、翌2008年10月13日に+0.147%のプレミアム)。



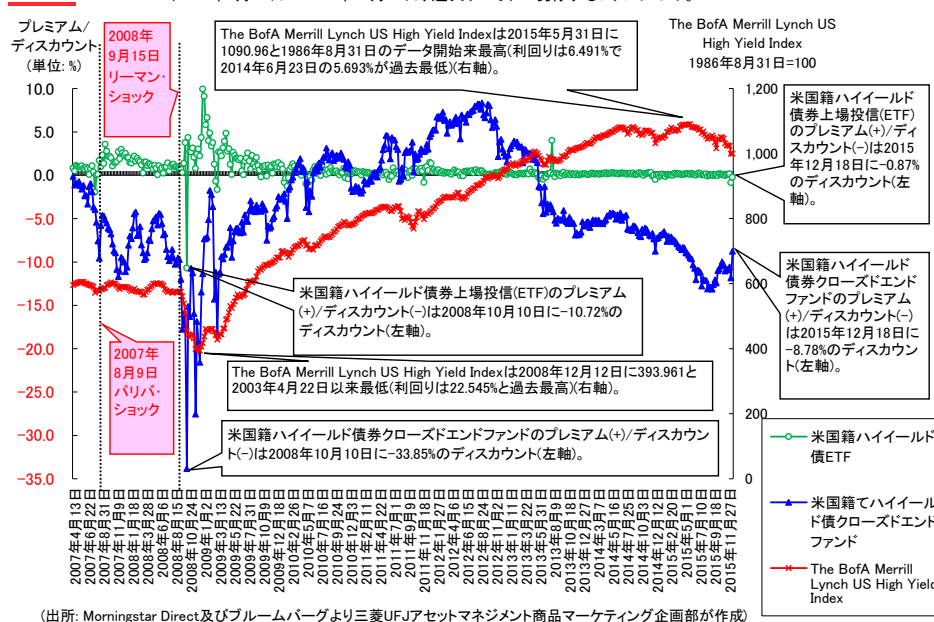
世界最大の金ETF「SPDRゴールド・シェア」と現物資産を裏付けとする米国籍の金ETFのプレミアム(+)/ディスカウント(-)の推移
(2004年11月18日～2025年10月24日、日次データ)



乖離率はアセットクラスまたは形態によっても異なる。参考まで、世界最大の金ETF「SPDRゴールド・シェア」が-6.146%と言う設定来最大のディスカウントを記録した2008年10月10日、米国籍ハイイールド債(ジャンク債)ETFは-10.72%のディスカウント、ハイイールド債券クローズドエンドファンドは-33.85%のディスカウントだった。ハイイールド債クローズドエンドファンドのプレミアム/ディスカウントの上下に比べ(下記グラフ青色)、ハイイールド債ETFのプレミアム/ディスカウントはかなり小さい(下記グラフ緑色)。これはETFでは裁定取引等が活発に行われる為である。

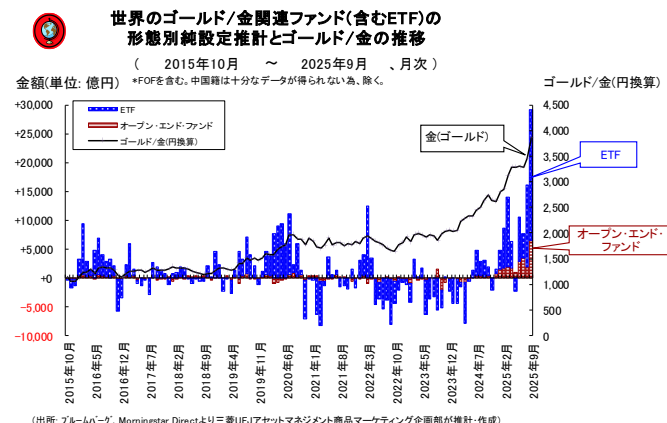
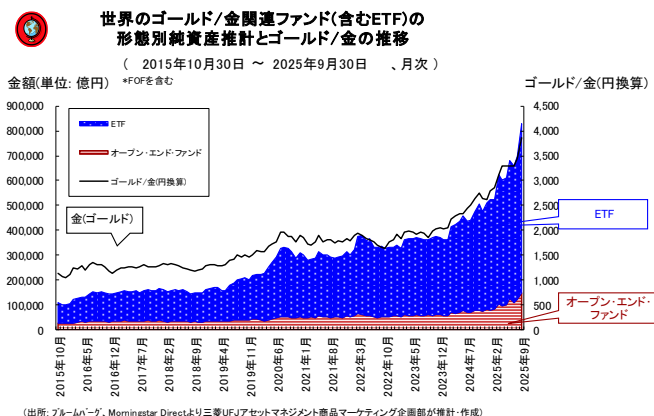


米国籍ハイイールド債券ETFとクローズドエンドファンドのプレミアム(+)/ディスカウント(-)の推移
(2007年4月13日～2015年12月18日、週次データ) *現存するファンドのみ。



米国モーニングスター/Morningstarは「プレミアムとディスカウントは、ポートフォリオ評価の差、マーケットメーカーが負担するコスト、ETFの需給という3つの構成要素に大まかに分解出来る。同一の投資対象であるETFの間でも保有者層が異なれば、異なる力が働く。」と言う(2020年3月27日付Morningstar「What Drives ETFs' Premiums and Discounts?」～ <https://www.morningstar.com/funds/what-drives-etfs-premiums-discounts>)

ここで、世界のゴールド/金関連ファンド(ETFを含む)の月次純流入を見る。 **世界のゴールド/金関連ファンド(ETFを含む)の純資産は2025年9月末時点で推計約83兆円と過去最大となっている**(入手出来る最新値の合計であり、FOFを含む)。**世界のゴールド/金関連ファンド(ETFを含む)の純設定は2025年9月に+2.9兆円と過去最大の純流入**(中国籍は純設定データが十分に得られないため除く)。ETFもオープン・エンド・ファンドも純流入が急速に膨らんでいる。



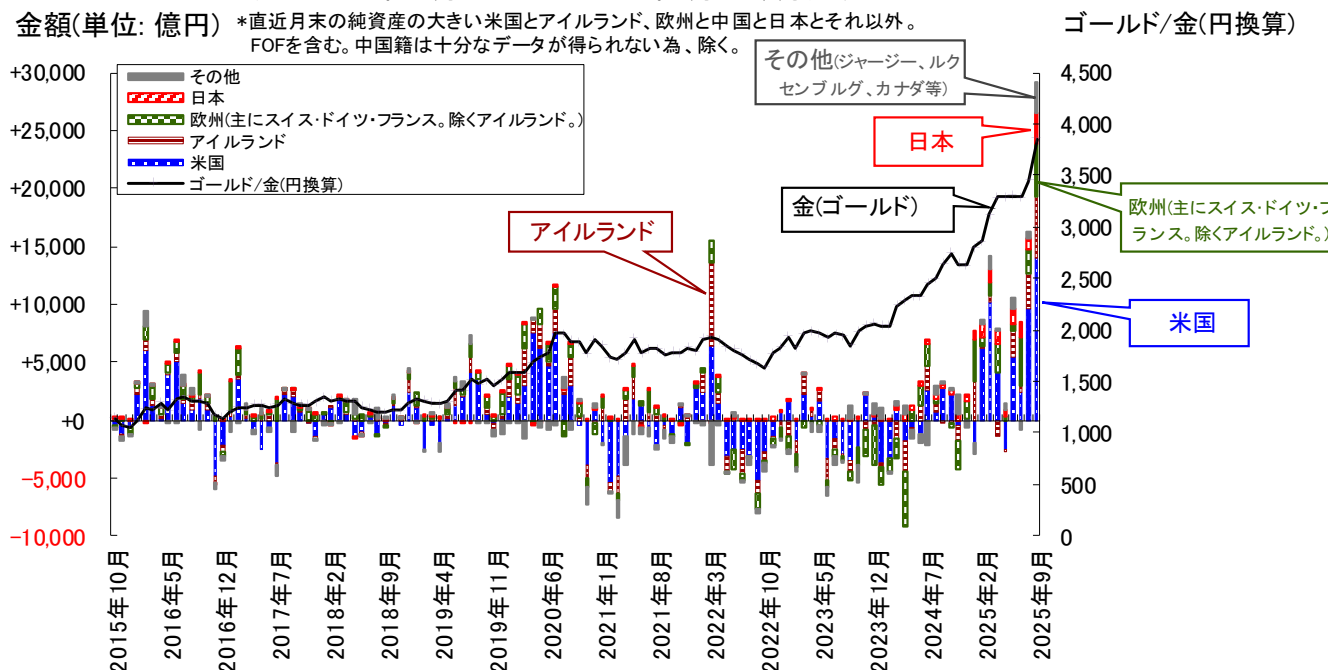
純設定を国籍別に見ると、2025年4・5月に米国籍とアイルランド籍と欧州籍を中心に純流入鈍化または純流出となったが、その後、6月以降に再び純流入が加速している。



世界のゴールド/金関連ファンド(含むETF)の国籍別純設定推計とゴールド/金の推移

(2015年10月 ~ 2025年9月 、月次)

金額(単位: 億円) * 直近月末の純資産の大きい米国とアイルランド、欧州と中国と日本とそれ以外。
FOFを含む。中国籍は十分なデータが得られない為、除く。



最後に日米の「ETFの乖離(プレミアム/ディスカウント)に関する開示」を見る。次頁参照。

＜日本＞ETFの乖離に関する開示



/東京証券取引所 2025年5月30日施行のETF等に係る上場制度の見直しに関する有価証券上場規程等の一部改正

ETFの基準価額と市場価格の終値の乖離率が20%以上となった場合もしくは基準価額と市場価格の終値の乖離率が5%以上となった日が7営業日連続した場合に、投資者が的確にリスクを把握し、適切な投資判断を行うことができるよう、乖離の状況、要因、投資判断上留意すべき点、今後の見通し等について、適時かつ適切に情報開示を行うこととする。

(出所: 東京証券取引所「国内指標連動型ETF・国内商品現物型ETF上場の手引き 第28版」～ <https://www.jpx.co.jp/equities/products/etfs/format/tvdivq0000005697-att/tvdivq000000u933.pdf>)

＜米国＞ETFのプレミアム/ディスカウントに関する開示



/2019年9月にSECが承認のルール6c-11(ETFルール)/Rule 6c-11(the ETF Rule)

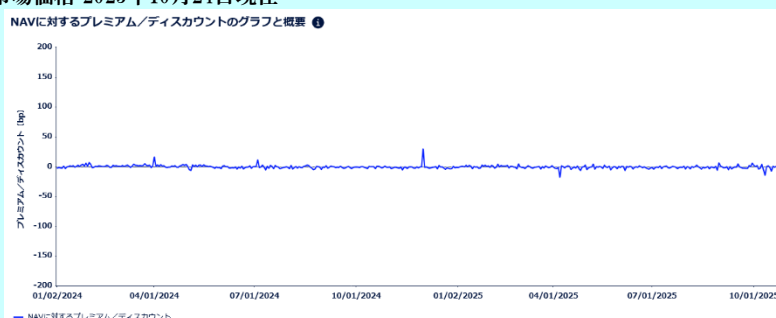
各営業日、ETFの主要上場取引所における通常取引開始前に、以下の情報をウェブサイト上で公開し、目立つように開示する。

ETFの1株当たり純資産額、市場価格、およびプレミアムまたはディスカウント(それぞれ前営業日末時点)。

直近の暦年および当該年の暦四半期(またはETFの存続期間が短い場合はその期間)におけるETFのプレミアムおよびディスカウントに関する情報を示す表と折れ線グラフ。

SPDR® ゴールド・シェア

市場価格 2025年10月24日現在



日数まとめ				
	2024年	2025年第1四半期	2025年第2四半期	2025年第3四半期
プレミアムで取引された日数	98	24	14	13
ディスカウントで取引された日数	152	35	48	51

(出所: ステート・ストリート・インベストメント・マネジメントのウェブサイト/2025年10月27日(月)閲覧～ <https://www.ssga.com/jp/ja/individual/etfs/spdr-gold-shares-gld>)

ETFのプレミアムまたはディスカウントが7営業日連続で2%を超えた場合、プレミアムまたはディスカウントが2%を超えたことをウェブサイトに掲載し、そのプレミアムまたはディスカウントに大きく寄与したと合理的に考えられる要因の説明を記載することが義務付けられる。掲載日から少なくとも1年間はウェブサイトに掲載。

Disclosure of ETF Premiums or Discounts Greater than 2%

As proposed, the rule will require any ETF whose premium or discount was greater than 2% for more than seven consecutive trading days to post that information on its website, along with a discussion of the factors that are reasonably believed to have materially contributed to the premium or discount.

(出所: SEC「Exchange-Traded Funds: A Small Entity Compliance Guide」～ <https://www.sec.gov/investor/exchange-traded-funds-small-entity-compliance-guide>, Rule 6c-11～ <https://www.sec.gov/files/rules/final/2019/33-10695.pdf>)

以 上

三菱UFJアセットマネジメント【投信調査コラム】日本版ISAの道(及び投信調査レポートの一部)のバックナンバー:

「 <https://www.am.mufg.jp/report/investigate/> 」。

三菱UFJアセットマネジメント株式会社 商品マーケティング企画部

松尾 健治(kenji-matsuo@am.mufg.jp)、

窪田 真美(mami1-kubota@am.mufg.jp)。

本資料に関してご留意頂きたい事項

■本資料はNISA(少額投資非課税制度)など内外の資産運用に関する情報提供のために、三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

■本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

■本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。

■本資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。

■本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の筆者の見解です。

■投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。

■投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

■投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

本資料中で使用している指数について

■TOPIX(東証株価指数)に関する知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。

■日経平均株価に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。

■MSCIヨーロッパ・インベスタブル・マーケット・インデックスに対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

■FTSE International Limited(“FTSE”)©FTSE。“FTSE®”はロンドン証券取引所グループ会社の登録商標であり、FTSE International Limitedは許可を得て使用しています。FTSE指数、FTSE格付け、またはその両方におけるすべての権利は、FTSE、そのライセンサー、またはその両方に付与されます。FTSEおよびライセンサーは、FTSE指数、FTSE格付け、もしくはその両方、または内在するデータにおける誤りや省略に対して責任を負わないものとします。FTSEの書面による同意がない限り、FTSEデータの再配布は禁止します。

■S&P/ASX200指数は、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックス(S&P DJI)の商品であり、これを利用するライセンスが三菱UFJアセットマネジメント株式会社に付与されています。S&P DJIは、S&P/ASX200指数の誤り、欠落、または中断に対して一切の責任を負いません。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会